

福島大好き新聞

チーム
会津っ子

駅伝王国 福島県が速いひみつ

「古里を思う選手たちこそ福島力」。都道府県対抗駅伝福島県チーム前監督の安西秀幸さん(32) Ⅱ会津若松市Ⅱは、毎年上位を狙う福島県の強さの理由を語った。駒澤大学で箱根駅伝総合優勝、実業団駅伝でも全国優勝している安西さんは駅伝の魅力と厳しさを話してくれた。(チーム会津っ子)

五輪候補よりうれしい県チーム入り

福島県はなぜ駅伝が強いのかという質問に安西さんは「福島県の選手は古里への思いがとて強い」と話した。これはほかの県にはないものだ、だから駅伝が強いのだという。福島県の強さには、ほかにも理由があった。それは、県全体の取り組み

だ。中学、高校の選手は足が速い人もまだいい記録のない人もみんなで練習する。一つの学校や、地域だけでなく県全体の強さを目指したのが強さの秘密だそう。



駒澤大学のユニホームを見せてくれた安西さん

都道府県対抗駅伝福島県チーム前監督 安西秀幸さん語る

「どこよりも強い古里への思い」

全国都道府県対抗男子駅伝
福島県の成績

1996年～
2018年

第1回	5位
第2回	3位
第3回	16位
第4回	2位
第5回	15位
第6回	19位
第7回	7位
第8回	4位
第9回	14位
第10回	10位
第11回	28位
第12回	21位
第13回	9位
第14回	5位
第15回	2位
第16回	15位
第17回	34位
第18回	23位
第19回	6位
第20回	20位
第21回	6位
第22回	28位
第23回	9位

安西秀幸さん 略歴

1985年9月18日生まれ(32歳) 河沼郡河東町(現会津若松市河東町)出身。会津高校から駒澤大学に進み陸上競技部主将を務め、箱根駅伝で総合優勝を果たす。実業団駅伝の名門・日清食品グループでは全国実業団駅伝で優勝した。4年前に農業資材販売を営む実家の安西商会を継ぐため会津若松市に戻り、全国都道府県対抗駅伝の福島県代表チーム監督を務めた。

- 主な戦績
- <会津高校時代>
 - ・2003年 県高体3000m障害で優勝
- <駒澤大学時代>
 - ・2006年(かつこ内は安西さんの成績) 箱根駅伝5位(7区17位)
 - 出雲大学駅伝5位(1区1位)
 - 全日本大学駅伝優勝(4区2位)
- ・2008年 箱根駅伝総合優勝(5区2位)
- <日清食品グループ時代>
 - ・2012年 全日本実業団駅伝優勝(7区5位)
- <福島県代表監督時代>
 - ・2017年 全国都道府県対抗駅伝28位
 - ・2018年 全国都道府県対抗駅伝9位

感謝を力に 失敗乗り越え恩返し

安西さんが今まで一番悔しかったのは、駒澤大学の箱根駅伝5連覇がかかっているとき、思うように走れず優勝を逃したことだ。それでも駅伝をやめなかった。それは、陸上選手では無名だった自分を大学に迎えてくれた大八木弘明監督(会津若松市出身)への恩返しをしたかったからだ。大学のときの練習時間は、朝20時、午前中40時、午後20時を1日おきに3週間続けた。休みの日も朝10時15分、午前中20時、午後15時は走った。練習量は社会人にも負けない自信があった。

小学時代の安西さん 足は速くなかった

安西さんの小学校時代は足の速さは「学年の中でも半分より下の方」だったという。

カレーが好き

好きな食べ物、カレーだったそう。安西さんは、朝20時、午前中40時、午後20時を1日おきに3週間続けた。休みの日も朝10時15分、午前中20時、午後15時は走った。練習量は社会人にも負けない自信があった。

夢はパン屋さん

小学校のころの夢は、陸上ではなく、パン屋さんだった。得意な教科は算数で逆に嫌いなのは国語。体育では陸上ではなく、水泳が好きだったそう。

私たちが作りました

チーム会津っ子 (写真右から) 相原匠翔 松長小5年 渡辺功夢 一箕小6年 佐藤双葉 東山小5年 渡部隆矢 城西小5年 (手にしているのは、安西さんの箱根駅伝総合優勝カップ)

分かりやすく走り方を教えてくれた安西さん



「普段から姿勢に気を付けて」 安西さんの走り方レッスン

安西秀幸さんにレッスンを受けたところ、全員体幹がずれていると言っていた。直すには毎日の勉強でも姿勢を正しく保つこと、一日に腹筋を千回すること、普段から骨盤に体重を乗せる意識が大切だという。安西さんの走り方は、足音がバタバタせずとも静かだった。速くなるのに必要なのは「能力」か「努力」。安西さんは「努力」で速くなったという。(相原匠翔)

